

# 「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2011年3月6日

所属：工学資源学 学部 研究科 環境物質工学 学科・課程・選修 専攻 2年

氏名：齊藤 晋

派遣先大学名（国）：ザンビア共和国（ザンビア大学）

在籍身分：留学生（Research Fellow）

派遣期間：2010年3月31日～2010年9月16日

渡航年月日：2010年3月31日

帰国年月日：2010年9月30日

## ○研究・学習概要及び今後の勉学計画

留学中、ザンビア大学鉱山学部（School of Mines）に所属した。ザンビア共和国の環境問題、とりわけルサカ市の廃棄物処理事情及びCDMへの取組を調査するため、住民へのアンケート調査および関連省庁へのインタビュー調査を実施した。ザンビアで得た結果と秋田及び日本の両項目への取組と比較し、ザンビアの持続可能な発展への提言を目的とした修士論文を作成している。今回の留学で得た知識や経験を生かせるような職につきたいが、具体的には定まっていない。

## ○生活面について

ザンビア共和国に渡航するのは2度目ということもあり、苦勞することなく半年間の滞在を過ごした。学生との交流は多くはなかったが、ザンビアで指導教官を務めていただいたDr. Kambaniはじめ教員諸氏、調査の実施に際しパートナーとしてアンケートやインタビュー事項の英文の手直しを手伝ってくれたザンビア大学大学院生のMr. Mwale、また、調査を通じ、関連省庁の方々には大変お世話になった。

現地での食事は、シマというトウモロコシの粉を混ぜたものが主食となる。Mr. Mwaleと一緒に調査に出た際には、よくレストランで一緒にシマを食べた。ザンビアはサバンナ気候に属し、11月から2月までが雨季、3月から10月までが乾季となっている。訪れた期間中は乾季であり、1滴も雨が降らなかった。また、ザンビアは南半球に位置していることに加え、ルサカ市の標高は1,000m程度と高いため、6月から9月初旬までは特に朝晩の冷え込みが厳しかった。また、住居は、大学の職員が多く暮らす集合住宅だった。古い建物だったらしく、天井の穴からネズミが出入りしていた。幸いにも被害はごみが散らかされた程度だったので、何の対策もしなかった。

### ○その他留学全般にわたる感想

滞在中、現地で指導教官を務めていただいた Dr. Kambani のご厚意により、ザンビア全土の電力をその水力発電で一手に担うカリバダム、環境問題と資金の問題により現在は稼働していないマンバ地区の石炭鉱山、アフリカ有数の銅の生産地域であるコッパーベルト州の見学に連れて行っていただいた。いずれもザンビア固有のものであり、ザンビアという国のより深い理解に役立つ貴重な経験だった。



マンバ石炭鉱山、2010年4月15日撮影。

学生のスタディーツアーに参加させていただいた。鉱山から出るガスが自然発火し、煙となっている。鉱山の職員によると、夜には緑や黄色の炎が見えるとの話だった。



カリバダム、2010年4月30日撮影。

ザンビアの電力の99%は、このカリバダムでの水力発電によって賅われている。カリバダムはザンビア南部に位置し、ここから、送電線網 (National Grid) を介して、ザンビア全土に電力が供給される。1960年に運転を開始する。



シマとおかず、2010年6月8日、行きつけのレストランにて撮影。

シマと呼ばれるのは、写真右下の白い物体。それ自体に味はない。そのため、付け合わせが必需品。写真はヴィレッジチキン（地鶏）とオクラ。おかずの味付けは、トマトベースに塩・コショウというシンプル。手で食べる。



ンチャンガ銅鉱山、2010年7月1日撮影。

残念ながら鉱山の外からのみの見学になった。代わりに面白いものを見ることができた。写真に映るのは盗掘者。露天掘りのサイトから歩いて昇ってきていた。同行した教授の話によると、盗掘された銅は、中国や日本に売られているとのことだったが、真偽は定かではない。写真を撮ると怒鳴られたが、現地の言葉だったので何を言っているのか理解できなかった。



チュンガ廃棄物埋立処理場、2010年8月19日撮影。

ルサカ市の廃棄物処理を担当する部局の方に連れて行っていただいた。常時100人を超える廃棄物を拾うことを生業とする人（scavengers）がいるという話を聞いた。ルサカ市で回収された廃棄物は、分別されることなくこの埋立処理場に運ばれる。強烈な光景だった。



自室にて、2010年9月16日撮影

L字型に配置されたテーブルと若干傾いた棚がついているだけの簡素な部屋だった。はじめは椅子すらなく、支給してもらった。帰国準備が終わった後に撮影したため何も無いが、調理用2口コンロやフライパンや皿などがあった。また、見えないが、窓と反対側にはベッドと冷蔵庫がある。



Dr. Kambani と、2010年9月16日撮影。

出国直前、ザンビアで指導教官を務めていただいた Dr. Kambani（写真右）。ビザの延長や省庁へのインタビュー調査の依頼文書のチェックなど調査に関することはもちろん、日常生活でも大変お世話になった。特に、ワールドカップ開催期間中は、よくバーに連れて行ってもらった。

※報告書は、派遣先大学における授業等の履修状況を除き、国際交流センター刊行物（Web サイト含む）に公開を予定しております。